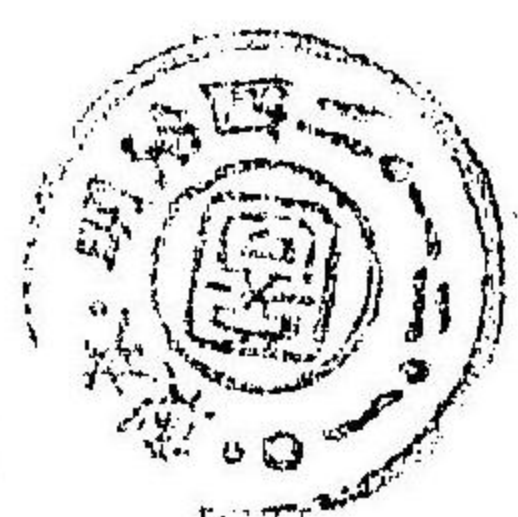


新  
刑  
法  
概  
觀

附警察犯處罰令概觀

完

明治大學出版部發行





## 新刑法概観

新刑法及ヒ警察犯處罰令ハ、愈々十月一日ヨリ實施セラレタリ、抑舊刑法ハ明治十五年一月一日以降殆ト三十年間吾人國民ノ金科玉條タリシモ時勢ノ推移、制度文物ノ變革等ハ其規定ヲシテ不備缺陷ヲ來サシメ、根本的改正ヲ爲スノ必要ヲ生シタルヲ以テ、政府ニ於テ二十五年一月ヨリ委員ヲ設ケテ調査修正ニ從事セシメ、二十八年十二月ニ至リ修正草案成リシヲ以テ之ヲ公示セシモ、成文ト爲ルニ至ラスシテ止ミ、更ニ法典調査會ニ於テ調査ノ上修正案ヲ作リテ三十三年十二月帝國議會ニ提出セシモ、審議ニ先タチテ會期ノ終了ヲ來シ、次テ第十六議會ニニタヒ提出シ幸ニ貴族院ヲ通過セシモ、衆議院ハ閉會ニ遭ヒテ審査ヲ終ル能ハサリキ、是ニ於テ乎政府ハ大ニ前案ニ改修ヲ加ヘ三タヒ第十七議會ニ提出セシモ不幸解散ノ大命天下リテ萬事止ミス、因テ更ニ些少ノ修訂ヲ施シ四タヒ第二十三議會ニ提出シテ始メテ兩院ノ協賛ヲ得、但シ各院ニ於テ少許ノ修正ヲ受ク、四十年五月法律第四十五號ヲ以テ新刑法トナリテ顯ハレタリ、新刑法ハ斯界ノ碩學大家カ社會ノ狀勢ニ鑑ミ最新ノ學理ヲ汲ミ多年ニ亘リテ審議編纂シタルモノナレハ舊刑法トハ全ク



其面目ヲ異ニスルノ觀アリ、又警察犯處罰令ハ大體ニ於テ舊刑法ノ違警罪ト其内容ヲ等シウスルモ、社會ノ必要ニ應シテ改削セラレタルモノ少ナカラス、左ニ此兩法ニ就キ改正ノ要點ヲ述ヘン

### 一 罪種ノ廢止

舊刑法ハ犯罪ヲ分テ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ト爲シ、更ニ重罪及ヒ輕罪ヲ公益ニ關スルモノト私益ニ關スルモノトノ二種ニ別テリ、然レトモ此ノ如キ區別ハ毫モ之ヲ認ムルノ實益ナキヲ以テ新刑法ハ斷然此等ノ區別ヲ設ケス且ツ舊法ノ違警罪ハ其實警察上ノ取締違反ノ行爲ニ過キササルヲ以テ之ヲ刑法上ニ規定スルハ其當ヲ得ストシ即チ警察犯處罰令ヲ設ケタリ

### 二 刑名ノ減少

甲 主刑ノ減少 舊刑法ハ主刑ヲ死刑、無期徒刑、有期徒刑、無期流刑、有期流刑、重懲役、輕懲役、重禁獄、輕禁獄、重禁錮、輕禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ十四種ト爲シ、而シテ重罪、輕罪、違警罪又ハ國事犯、非國事犯等ノ區別ニ應シ適用スヘキ刑ヲ異ニスルコト、爲セルモ之カ爲メ徒ニ執行ノ手續ヲ煩雜ニシ勞費ヲ多カラシムルノミナラス却テ裁判官ノ自由裁量ノ餘地ヲ狹クシ罪刑其當ヲ失スルコトアルヲ以テ新刑法

ハ大ニ刑名ヲ減少シ死刑、無期懲役、有期懲役、無期禁錮、有期禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ八種ニ止メタリ

乙 附加刑ノ減少 舊刑法ハ附加刑ヲ剝奪公權、停止公權、監視、罰金及ヒ沒收ノ五種ト爲シタルモ新刑法ハ前四者ヲ廢止シ附加刑ハ單ニ沒收ノミニ止メタリ、蓋シ剝奪公權及ヒ停止公權ハ其性質上犯罪者其人ニ依リテ大ニ痛痒ヲ感スルノ度ヲ異ニシ不公平ニ陥ルコトアルモノニシテ刑罰トシテハ不適當ノモノナルヲ以テ公權ヲ行フニ必要ナル資格ヲ定ムル特別法例ヘハ選舉法、市町村制等ニ之ニ關スル規定ヲ設クルヲ適當トシ之ヲ刑罰ノ一トシテ刑法中ニ一般的规定ヲ設クルコトヲ避ケタルモノニシテ、又監視ハ實際上ノ取締困難ニシテ再犯豫防ノ目的ヲ達シ難キノミナラス之カ爲メ却テ犯人ヲ窮地ニ陥ラシメ止ムヲ得スシテ犯罪ヲ累スルニ至ラシムルコトアリ即チ寧ろ有害無益ノ制度タルヲ以テ斷然之ヲ廢止シタルモノナリ、又附加罰金ヲ廢止シタルハ既ニ主刑トシテ存置スル以上別ニ附加刑トシテ之ヲ存スルノ要ナキニ依ル

### 三 刑ノ適用範圍ノ擴大

新刑法ニ於テハ刑ノ範圍ヲ擴大シ裁判官ニ甚タシク裁量ノ自由ヲ與ヘタルヲ以



テ、裁判官ハ犯罪ノ情狀如何ヲ考察シ各本條ニ規定セル範圍内ニ於テ最モ適當ト  
信スル刑ヲ科スルコトヲ得ヘシ、即チ一方ニ於テハ從來ヨリモ裁判官ノ技術ヲ要  
スルコト大ナルニ至リシモ、他方ニ於テハ舊法ノ刑ノ範圍甚タ狹隘ニ失シ情狀ノ  
如何ニ拘ハラズ必ス其規定セル範圍内ノ刑ヲ科セサルヘカラサル窮屈ナル羈絆  
ヲ緩メシヲ以テ犯情ニ從テ適宜ノ刑罰ヲ按排スルヲ得ヘシ、例ヘハ殆ト不可抗力  
トモ稱スヘキ事情ニ因リ罪ヲ犯セル者アリテ而カモ犯罪後甚タシク悔悟ノ實ア  
ルモ舊刑法ノ下ニ於テハ各本條ニ規定セル刑ノ最モ輕キモノヲ適用スルノ外ナ  
ク、又之ニ反シ同種ノ犯罪ナルモ其犯情甚タ憎ムヘク行爲頗ル殘酷ヲ極メタル犯  
人ニシテ而カモ毫モ改悛ノ望ナク社會ニ甚タシク危險アル者ニ對シテハ法定刑  
ノ最極度ヲ適用シテ重罰スルコトヲ得ルトハ云ヒナカラ、元來刑ノ範圍狹小ナル  
ヲ以テ前後兩者ノ間ニ存スル徑底甚タ小ナルノ嫌アリ、今實例ニ就テ言ヘハ、妻ハ  
病床ニ臥シ兒ハ飢ニ泣クノ慘狀ニ堪エスシテ隣家ノ牆壁ヲ越エ臺所ヨリ飯一櫃  
ヲ盜ミタル者モ、酒色ノ慾ニ飽カン爲メ豫テ用意セル合鍵ヲ以テ嚴重ナル鎖鑰ヲ  
開キ數萬金ヲ盜ミタル娘師モ、舊刑法ノ下ニ於テハ共ニ六月以上五年以下ノ範圍  
内ニ於テ重禁錮ニ處セサルヘカラス、即チ其情狀憫ムヘキ前者ト雖モ六ヶ月以下

四

ニ下スコトヲ得ス、其心術憎ミテモ尙餘アル後者ト雖モ五年以上ニ上スコトヲ得  
スシテ兩者ノ間甚タシキ不權衡ヲ來スコトアリ、然ルニ新法ニ於テハ竊盜ノ罪ハ  
十年以下ノ懲役(懲役ハ舊刑法ノ重禁錮ト實質ニ於テ異ナルコトナシ)ニ處ストセ  
ルヲ以テ裁判官ハ十年以下一月以上ノ範圍内ニ於テ犯情ニ應シ相當ノ刑ヲ科ス  
ルヲ得ルナリ(勿論舊刑法モ酌量減輕ヲ認メタルヲ以テ前者ニ付テハ其規定ニ依  
リ六月以下ニ下スコトヲ得ト雖モ、舊法ノ酌量減輕ハ一等又ハ二等ニ止マリ假令  
二等ヲ減スルモ三月以上二年半以下ノ範圍内ニテ處罰セサルヘカラスシテ新刑  
法ノ法定刑ノ最少限ヨリモ重シ、況ヤ新刑法上ノ酌量減輕ハ刑期ノ二分ノ一ヲ減  
スルヲ以テ十五日以上五年以下ノ範圍内ニテ處分スルコトヲ得ルニ於テオヤ要  
スルニ新刑法ハ舊刑法ヨリモ遙ニ裁判官ノ自由裁量ノ範圍廣大ニシテ隨テ犯情  
ニ應シ適宜ノ刑ヲ科スルヲ得ヘキナリ

#### 四 特別犯ノ規定ヲ削リタルコト

舊刑法ハ(1)私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪(2)公務ヲ行フヲ拒ム罪  
(3)度量衡ヲ偽造スル罪(4)公選ノ投票ヲ偽造スル罪(5)傳染病豫防規則ニ關スル罪  
(6)危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪(7)健康ヲ害スヘキ飲食



物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪(8)私ニ醫業ヲ爲ス罪(9)官吏公益ヲ害スル罪(10)家資分散ニ關スル罪(11)印紙郵便切手ノ偽造變造行使及ヒ再貼用等ノ特別犯若クハ懲戒處分ヲ受クヘキ行爲ニ屬スルモノヲ規定セリ然レトモ此等ノ行爲ハ其各特別法若クハ懲戒法ノ支配内ニ置クヘキモノニシテ一般刑法ニ規定スヘキ性質ノモノニアラサルカ故ニ新刑法ハ之ヲ削除シテ各特別法ニ讓ルコト、セリ(但シ右ノ諸犯罪中(1)(3)(4)(5)(10)及ヒ(11)ニ關スル規定ハ現今之ニ關スル特別法ノ規定不備ナルヲ以テ當分ノ内其效力ヲ有スルコト、セリ)刑法施行法第二五條參照

### 五 國際的規定ノ新設

舊刑法編纂當時ニ在リテハ我國權未タ大ニ伸ヒス隨テ諸外國トノ關係亦密接ナル能ハスシテ、内外國交涉事件ノ如キモ殆ト其發生ヲ豫想スルノ必要ヲ見サリキ殊ニ當時ハ舊條約ノ時代ニシテ國民多數ノ希望タリシ條約改正未タ行ハレス、所謂治外法權即チ領事裁判制度ノ行ハレタル時代ナルヲ以テ、我國ノ法律ハ殆ト外國人ニ對シテハ之ヲ執行スルコトヲ得サリシナリ、故ヲ以テ國際刑法的規定國交ニ關スル罪ニ付キ何等規定セル所ナシ然ルニ條約ハ既ニ改正セラレテ國威ハ發揚シ、國權ハ年ト共ニ伸暢シ、殊ニ日清日露ノ二大戦役ニ大勝ヲ得テ所謂一等國ノ

群ニ入り、列強ノ間ニ伍シテ平和ノ戰場ニ角逐スルニ至リテヨリハ國際關係日ニ益、密接ヲ加ヘ、外國人ニ對シテモ我刑法ヲ適用シ、外國領土内ノ行爲モ尙ホ或範圍迄ハ我刑法ヲ以テ律セスンハ、以テ我帝國並ニ臣民ノ安寧ト福利トヲ完全ニ保護スル能ハス、殊ニ來遊ノ外國君主大統領若クハ使節ノ如キ貴顯ニ對シ暴行若クハ侮辱ヲ加フルカ如キコトアラハ其來遊ノ目的如何ニ拘ハラズ之ヲ充分ニ處罰セズンハ或ハ國交ノ圓滿ニ缺クル所ナシトセス、是ヲ以テ新刑法ハ第一條乃至第五條並ニ第九〇條乃至第九四條ニ於テ此等ノ事項ニ關スル規定ヲ設ケタリ

### 六 公務員ニ關スル規定ヲ設ケシコト

舊刑法制定當時ニ於テハ我國家ノ行政組織ハ主トシテ官府組織ナリシヲ以テ、法律ノ豫想スル所單ニ官公吏ニ止マレリト雖モ、其後自治制度ノ創設、憲法ノ實施等ニ因リ帝國議會議員、市町村會議員、府縣會議員其他各種ノ委員等多クノ公務ニ從事スル職員ヲ見ルニ至レリ、然ルニ此等ノ議員委員等ハ官公吏ナル語中ニ包含セシムル能ハサルヲ以テ其收賄行爲ハ之ヲ罪トスル能ハス、其瀆職ノ行爲ニ對シテモ科刑スルヲ得ス、又此等職員ノ職務執行ヲ妨害シ若クハ或處分ヲ爲サシムル爲メ暴行脅迫ヲ加ヘタル行爲モ亦之ヲ處罰スルニ由ナシ、其他文書印章等ノ偽造罪



等モ官公文書官公印ノ偽造ナル觀念ノミニテハ狹キニ失ス、因テ此等ノ行爲ニ付  
キ一二ノ特別法ヲ發シテ應急ノ手段ヲ講セシモ一般的规定ナカリシ爲メ往々吞  
舟ノ魚ヲ逸スルノ憾アリキ、是ヲ以テ新刑法ハ公務員及ヒ公務所ナル觀念ヲ創メ  
以テ此等ノ遺漏ヲ補充セリ(第七條參照)

### 七 社會ノ進歩ニ伴フ新規定

十九世紀ノ中葉以降殊ニ最近二三十年間ニ於ケル世界ノ物質的進歩ハ實ニ人智  
以上ニシテ殊ニ我國ノ進歩發展ハ世界ノ驚歎スル所タリ、而シテ社會人智ノ進歩  
ハ之ニ伴ヒテ犯罪術ノ進歩ヲ來シ隨テ舊刑法ヲ以テ律スル能ハサル事項少ナカ  
ラサルニ至レリ、故ニ新刑法ハ此等ノ事項ニ關スル規定ヲ新設セリ即チ電車、鑛坑、  
瓦斯、電氣、蒸汽、水道ニ關スル諸規定ノ如キ是ナリ就中電流ノ盜取ニ付テハ曾テ實  
例ヲ生シ、判決及ヒ學說各相一致セサリシコトアルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ  
物ト同視シ隨テ之ニ對シテ盜罪ノ成立ヲ認メタリ(第二四五條)

### 八 刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ掲ケシコト

犯罪ノ習癖ヲ有セサル者カ一時ノ感情ニ驅ラレテ輕微ナル罪ヲ犯シタル場合ノ  
如キハ特ニ刑ノ痛苦ヲ加ヘサルモ再犯ノ虞ナキヲ常トス、然ルニ一般犯罪人ト等

シク之ニ對シテ刑ヲ執行センカ、受刑中終始凶惡無頼ノ徒ト相接スルノ結果不知  
不識惡習ニ感染シ、爲メニ反テ惡漢ト化スル者アリ、否ラサル者ト雖モ滿期後正業  
ニ就カントスルモ既ニ刑餘ノ人タルカ爲メ良民之ト伍スルヲ厭ヒ郷黨隣里ニ容  
レラレス、交際ノ困難ハ延テ生活ノ難澁ヲ來シ、止ムヲ得スシテ犯罪ヲ累ヌル者少  
ナカラス故ニ斯ノ如キ犯人ニ對シテハ一定ノ期間内刑ノ執行ヲ猶豫シテ其悔悟  
遷善ヲ促カスヲ得策トス、執行猶豫ノ制度ハ畢竟此趣旨ニ基ツクモノニシテ而シ  
テ犯人カ其猶豫期間ヲ無事ニ經過シタルトキハ前ニ言渡シタル刑罰ノ執行ヲ免  
除スルニ在リ、然レトモ舊刑法制定當時ニ於テハ未タ斯ノ如キ思想發達セス隨テ  
其規定ヲ爲サ、リシニ因リ三十八年法律第七十號ヲ以テ此制度ヲ創設セシモ尙  
ホ充分ノ效果ヲ舉クルニ至ラザリシヲ以テ新刑法ノ編纂ニ際シ其規定ニ修正ヲ  
加ヘ之ヲ同法中ニ收メタリ、今新刑法ニ就キ執行猶豫制度ヲ略説シ併セテ舊法即  
チ三十八年法律第七十號トノ差異ヲ概示センニ新刑法ハ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處  
セラレタルコトナキ者又ハ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免  
除ヲ得タル日ヨリ七年以内(舊法ハ十年以内)ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト  
ナキ者ニシテ二年以下(舊法ハ一年以下)ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ



情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下(舊法ハ二年以上五年以下)ノ期間内其執行ヲ猶豫スルノ權限ヲ裁判官ニ付與シ、猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者猶豫期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラル、カ又ハ猶豫ノ言渡前ニ犯シタル犯罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニセラル、カ若クハ猶豫言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其執行終了又ハ執行免除ノ日ヨリ七年(舊法ハ十年)ヲ經過セサルコト發覺シタル場合ニハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘク、其取消ヲ受ケスシテ猶豫期間ヲ經過シタル場合ニハ新刑法ハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フモノトシ、舊法ハ猶豫セラレタル刑ノ執行ヲ免除スト規定セリ、最レ新舊二法ノ大ニ其主義ヲ異ニスル所ニシテ實際ノ結果ニ於テモ亦重大ナル差異ヲ生スルノ點ナリ、抑モ執行猶豫ノ性質ニ付テハ立法例區々タリト雖モ之ヲ大別シテ(一)猶豫ヲ受ケタル犯人カ猶豫期間ヲ無事ニ經過シタル場合ニハ法律上當然先ノ有罪判決消滅シ之ニ反スルトキハ先ノ有罪判決ヲ執行スルモノ即チ判決其モノヲ條件ニ繋ラシムル主義ト(二)同一ノ場合ニハ先ノ判決ニテ言渡サレタル刑ハ執行ヲ免除シ之ニ反スルトキハ刑ヲ執行スルモノ即チ刑ノ執行ヲ條件ニ繋ラシムル主義トノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ、而シテ舊法ハ(二)ノ主義ヲ採リタリト雖モ此主義ニ從フトキハ有罪判決其

モノハ依然トシテ存在スルヲ以テ被猶豫者ニ對スル前科者ノ汚名ハ永久ニ消滅セズ其者ニシテ更ニ罪ヲ犯ストキハ累犯者トシテ刑罰ヲ加重セラル、ニ至ルカ故ニ刑罰免除ノ恩典ニ浴シナカラ尙ホ世人ヨリ厭惡セラレ社會ヲ怨嗟スルノ念ヲ起スノ結果自暴自棄ニ陥リ終ニ犯罪ヲ再ヒセシムルニ至リ折角ノ良法制モ爲メニ其主旨ヲ完フスル能ハサルニ至ルヘキヲ以テ刑事政策トシテ上乘ノモノト謂フ可カラス、是ヲ以テ新刑法ハ舊法ノ主義ヲ排シテ(一)ノ主義ニ從ヒ猶豫期間ヲ無事ニ經過シタルトキハ全然判決ノ效力ヲ失ハシムルコト、セリ即チ單純ナル執行猶豫ニ非スシテ條件附裁判言渡ナリ此主義ハ被猶豫者ヲシテ社會ニ濶歩シテ良民ト伍スルヲ得セシムルモノナルヲ以テ改善獎勵ノ效果著シク累犯豫防ノ方策トシテ最モ適當ノ法制ナリト謂ハサル可カラス

九 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免ニ關スル

規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

(一)適法行為ニ關スル規定 舊刑法ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行為ハ其罪ヲ論セストノ規定ヲ設クルニ止マリタルヲ以テ往々其以外ノ適法行為ニ付テ疑問ヲ生セシヲ以テ新刑法ハ法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行



爲ハ之ヲ罰セスト明記シタリ

(二) 正當防衛ニ關スル規定 舊刑法カ正當防衛行爲ヲ殺傷ニ關スル特別ノ不論罪トシタルハ學者ノ一齊ニ批難スル所ナリキ是ヲ以テ新刑法ハ之ヲ總則編中ニ移シテ一般ノ不論罪トシ且ツ舊刑法カ身體財産ノ防衛ノミニ限リタルヲ狭シトシテ廣ク權利ノ防衛行爲ヲ無罪トシ又防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得トセリ

(三) 緊急避難行爲ニ關スル規定 舊刑法第七十五條即チ不可抗力ニ因ル反意行爲ニ關スル規定ニ付テハ種々ノ疑問ヲ生シ同法中最難解ノ條文ト稱セラレシヲ以テ新刑法ハ自己又ハ他人ノ生命身體自由若クハ財産ニ對スル現在ハ危難ヲ避ケル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セスト規定セリ

(四) 心神耗弱者ノ行爲ニ關スル規定 舊刑法ハ心神喪失者ノ行爲ニ付テハ其罪ヲ論セサル旨ヲ規定セルモ心神耗弱者ノ行爲ニ付テハ何等ノ規定ナカリシヲ以テ此等ノ者カ犯罪ヲ爲シタルトキハ一般人ト同一ノ處刑ニ服セサルヲ得サリシナリ然レトモ心神耗弱者ハ犯罪ニ就テノ知覺普通人ト同一ナラサルコト勿論ナルヲ以テ之ヲ普通人ト同視スルハ其當ヲ得サルヲ以テ新刑法ハ特ニ其刑ヲ減輕スル旨ヲ規定セリ

(五) 瘖啞者ノ行爲ニ關スル規定 舊刑法ハ瘖啞者ノ行爲ニ付テハ如何ナル場合ト雖モ其罪ヲ論セサル旨ヲ規定セリト雖モ近時教育術ノ進歩ハ瘖啞者ト雖モ相當ノ教育ヲ受クルヲ得ルニ至リタルカ故ニ絶對的ニ之ヲ無罪トスルハ危險ナルヲ以テ新刑法ハ瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕スト規定シ裁判官ヲシテ犯人ノ如何ニ因リ適當ノ判決ヲ爲サシムルコトヲセリ

(六) 幼年者ノ行爲ニ關スル規定 舊刑法ハ人ノ犯罪責任年齢ニ關シテ四別主義ヲ採リ犯人カ犯罪ノ時ニ於テ  
イ 十二歳以下ナルトキハ其罪ヲ論セス  
ロ 十二歳以上十六歳以下ノ者ニ付テハ實際其者カ是非ヲ辨別シテ爲シタルヤ否ヤヲ審案シ辨別ナカリシトキハ其罪ヲ論セス辨別アリテ犯シタルモノナルトキハ本刑ニ二等ヲ減ス



ハ 十六歳以上二十歳以下ノ者ニ付テハ本刑ニ一等ヲ減ス  
 ニ 二十歳以上ニ達シタル者ヲ以テ全責任者トス  
 ト規定シタリト雖モ此ノ如キ法制ハ往々不公平ノ結果ヲ生スルコトアリ又實際  
 ノ運用ニ於テモ繁雜ナルヲ以テ新刑法ハ此主義ニ依ラスシテ滿十四歳以下ノ者  
 ノ行為ハ總テ之ヲ罰セスト規定セリ而シテ新刑法カ責任年齢ヲ十四歳トシ舊刑  
 法ヨリモ二年ノ延長ヲ爲セルハ蓋シ舊刑法定ノ時代マテハ幼年犯罪者ニ對ス  
 ル懲治ノ方法充分ニ發達セサリシノミナラス刑罰ノ目的ニ付テノ觀念モ今日ト  
 同シカラサリシヲ以テ成ル可ク責任年齢ヲ低クスルノ必要上之ヲ滿十二歳ト爲  
 シタリト雖モ近時刑事政策ノ進歩ハ漸々此責任年齢ヲ高ムルノ傾向ヲ生シ或ハ  
 之ヲ二十歳ト爲ス國スラアリト雖モ我國ニ於テハ十四五歳ニ達スルトキハ往々  
 大人ニ優レル惡事ヲ爲ス者アリ然ルニ此等ノ者ニ向テ無責任ヲ約束スルハ甚々  
 危險ナルヲ以テ新刑法カ滿十四歳トセシハ妥當ノ規定ナリト謂フヘシ新刑法カ  
 減輕時期即チ舊刑法上ノ十二歳以上十六歳未滿及ヒ十六歳以上二十歳未滿ノ如  
 キヲ設ケサリシハ各犯罪ニ對スル刑ノ裁量範圍ヲ擴大シタルヲ以テ別ニ其時期  
 ヲ設クルノ要ヲ認メサリシニ因ル

因ニ言フ舊刑法及ヒ第三章草案ニ於テハ幼年者ニ對スル懲治ノ處分及ヒ精神病者  
 ニ對スル監置ノ處分ニ關シ規定スル所アリシモ新刑法ハ其規定ヲ爲サス是レ此  
 等ノ處分ハ刑罰ニ非サルヲ以テ特別法ニ讓ルヲ妥當トスルヲ以テナリ  
 (七)自首ニ關スル規定：舊刑法ハ自首ヲ爲シタル者ハ必ス本刑ニ一等ヲ減シ又財  
 産ニ對スル罪ヲ犯シタル者官又ハ被害者ニ首服シ贓物ノ全部又ハ一部ヲ還付シ  
 タルトキハ其還付ノ程度如何ニ因リ自首減等ノ外尙ホ一等又ハ二等ヲ減スルノ  
 設定ヲ設ケ尙ホ謀故殺罪ニハ自首減等ヲ爲サ、ル旨ヲ規定シタリト雖モ謀故殺  
 ヲ除外スルニ付テノ充分ノ理由ナク又自首者ニ對シテ必ス一等ヲ減スルモノト  
 スルノ結果自首減等ヲ豫期シテ犯罪ヲ爲ス者ナキニ非サルノミナラス贓物ヲ還  
 給スルノ程度ニ從テ減等ノ度ヲ異ニスルカ如キハ規定除リニ微細ニ過キ且ツ往  
 々弊害ヲ生スルコトアリ是ヲ以テ新刑法ハ之ヲ改メ罪ノ種類ヲ問ハス自首シタ  
 ル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得トシ以テ種々ノ弊害ヲ一掃シ且ツ自首減輕本來  
 ノ目的ヲ達センコトヲ期セリ  
 尙ホ新刑法ハ親告罪ニ付キ告訴權者ニ首服シタル者モ亦官ニ自首シタル場合ト  
 同一ノ特典ニ浴スルコト、セリ是レ親告罪ノ性質上至當ノ規定ナリト謂フ可シ



### 十 未遂犯ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタ

ルコト

舊刑法ハ犯人意外ノ障礙又ハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル場合ノミヲ未遂犯ト爲ス旨ヲ規定スルニ止マリシヲ以テ種々ノ疑問ヲ生シタルカ故ニ新刑法ハ一旦犯罪ノ實行ニ著手シタル後之ヲ遂ケサリシ場合ニハ其原因ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ未遂犯ト爲シ其處分ニ至リテモ舊刑法ハ必ス一等又ハ二等ヲ減輕スヘキモノトシタリト雖モ新刑法ハ必スシモ減刑スヘキモノト爲サスシテ一ニ情狀ニ因ルコト、セリ是レ未遂罪ハ既遂罪ニ比シ危害ノ程度多少輕キモノナキニアラスト雖モ時トシテハ其犯情恕スヘカラサルモノアルヲ以テナリ唯自己ノ意思ニ依リ止メタルモノ即チ中止犯ニ付テハ其害惡少ナク犯情モ亦大ニ恕スヘキ點アルヲ以テ之ヲ罰スルニ當リ必ス減刑又ハ免刑セサルヘカラストセリ

### 十一 併合罪(即チ數罪俱發)ニ關スル規定

ニ改正ヲ加ヘタルコト

(一)有形的併合罪ニ關スル規定 舊刑法ハ有形的數罪俱發ノ場合ニ付キ原則トシテ所謂吸收主義ヲ採リ輕キ罪ハ重キ罪ニ吸收セシメテ重キ罪ノ刑ノミヲ科スル

コト、セリ然レトモ此主義ハ他ノ數箇ノ犯罪ヲ無視スルモノニシテ理論ニ背馳スルノミナラス已ニ一罪ヲ犯ストキハ之ヨリ輕キ罪ハ幾度犯スモ處罰セラレサルヲ以テ反テ犯行ヲ獎勵スルノ嫌アルヲ以テ進歩セル今日ノ法制ニ於テ採用スヘキモノニ非ス、サリトテ併科主義ヲ採ランカ此主義ハ罪アレハ必ス刑アリトノ原則ニ適ヒ最モ理論的ナリト雖モ之カ遂行上ニ於テ事實上及ヒ法律上ノ障礙ニ遭遇シ實際併科スルコト能ハサル場合少ナカラサルノミナラス往々過酷ニ流ル、ノ恐アリテ亦良制ト謂フヘカラス故ニ新刑法ハ兩主義ヲ折衷シテ罪刑ノ權衡ヲ得セシメンコトヲ圖レリ、左ニ其大要ヲ示サンニ

- 一 數罪中一罪ニ付キ死刑ニ處スヘキトキハ沒收ヲ除ク、外他ノ刑ヲ科セス無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキトキハ罰金、科料、沒收ヲ除ク、外他ノ刑ヲ科セス
- 二 數罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但シ各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス
- 三 罰金ト死刑以外ハ刑トハ之ヲ併科ス二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ之ヲ處斷ス

新刑法概觀

十 未遂犯ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

十一 併合罪(即チ數

一七



四 二個以上ノ沒收、拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス  
 五 拘留ト死刑、無期ハ懲役又ハ禁錮以外ハ刑及ヒ科料ト死刑以外ハ刑トハ之ヲ併科ス

六 數罪中既ニ確定裁判ヲ經タル罪ト否ラサル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷シ各刑併セテ之ヲ執行ス但シ死刑ヲ執行スヘキトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ科セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スヘキトキキハ罰金、科料、沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス

(二) 無形の併合罪ニ關スル規定 舊刑法ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、場合即チ學術上所謂無形の併合罪(又ハ無形の數罪俱發ニ關スル規定ヲ爲サ、リシニ因リ種々ノ疑問ヲ生セシヲ以テ新刑法ハ此場合ニ對スル明文ヲ設ケ其中最モ重キ刑ヲ以テ之ヲ處斷スルコト、セリ蓋シ此場合ニハ有形的ニ數個ノ犯行アリシニアラス隨テ有形的併合罪ノ場合ノ如ク社會ヲ害スルノ度甚タシカラサルヲ以テナリ

(三) 連續犯ニ關スル規定 學術上所謂連續犯即チ連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、場合ニ付テモ亦舊刑法ハ其規定ヲ欠如セリ故ニ新刑法ハ之ヲ

明規シ一罪トシテ處斷スルコト、セリ

十二 累犯(即チ再犯)ニ關スル規定ニ改正

ヲ加ヘタルコト

(一) 舊刑法ハ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ルトキ先ニ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ルトキ及ヒ先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ルトキハ其罪質ノ如何ニ拘ハラズ總テ再犯加重ヲ爲スコト、セシモ新刑法ハ之ヲ改メテ先ニ懲役ノ刑ニ處セラレタル者再犯懲役ニ該ル場合ニノミ加重スルコト、セリ蓋シ累犯ハ竊盜、強盜、詐欺取財、其他ノ破廉耻罪ノ慣行的性癖ニ陥リタル者ニ多ク而シテ此等ノ犯罪ニ對シテハ懲役ヲ科スルヲ以テナリ

(二) 加重ニ關シテ舊刑法ハ僅ニ一等ニ止メタルヲ新刑法ハ長期ノ二倍以下ノ範圍内ニ於テ處斷スルコト、セリ

(三) 舊刑法ハ初犯違警罪ニシテ再犯亦違警罪タル場合ノ外、初犯後幾年ヲ距ルト雖モ再ヒ犯罪アルトキハ之ヲ再犯トセリト雖モ是レ犯人ニ對シテ酷ニ失スルヲ以テ新刑法ハ其期間ニ制限ヲ設ケテ五年内ノ犯罪ニ限り再犯トシテ處分スルコト



### 十三 共犯ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

(一) 正犯及ヒ從犯ニ關スル規定 舊刑法ニテハ正犯從犯ノ區別明瞭ナラザリシニ因リ實例上種々ノ疑問ヲ生セシヲ以テ新刑法ハ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ正犯正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トシ以テ明確ニ其區別ヲ爲セリ

(二) 教唆者ノ教唆者及ヒ從犯ノ教唆者ニ關スル規定 是レ舊刑法ノ欠如スル處ナリシヲ以テ新刑法ハ明ニ之ヲ規定シ前者ハ教唆者ニ準シ後者ハ從犯ニ準スルコトセリ

(三) 身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ノ共犯ニ關スル規定 是レ亦舊刑法上其規定ナカリシヲ以テ新刑法ハ之ヲ明規シ其犯罪ニ加效シタル者ハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トストセリ

### 十四 刑ノ加減ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

舊刑法ハ刑ノ加重及ヒ減輕ニ付キ等別主義ヲ採リ各罪ニ對スル刑期金額ノ二分ノ一ヲ以テ一等ト爲シ而シテ加減スヘキ數箇ノ原因アルトキハ其等數ヲ積算スルコト、シタルモ規定微細ニ過キテ錯雜ヲ生スルノ弊アリシヲ以テ新刑法ハ此制度ニ倣ハスシテ法律ニ依リ刑ヲ減輕スヘキ一箇又ハ數箇ノ原因アルトキ(但シ酌量減輕ハ他ノ原因ニ依リテ減輕シ又ハ加重スル場合ト雖モ仍ホ之ヲ爲スコトヲ得)ハ左ノ例ニ依ルコト、シタリ

- 一 死刑ヲ減輕スヘキトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕スヘキトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕スヘキトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
  - 四 罰金ヲ減輕スヘキトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
  - 五 拘留ヲ減輕スヘキトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
  - 六 科料ヲ減輕スヘキトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 因ニ言フ新刑法ハ加重ニ付テハ各場合ニ付テ其程度ヲ定メタルヲ以テ一般の標準ヲ定ムルコトナシ

### 十五 徵償處分、復權及ヒ親屬例ノ規定ヲ

#### 削リタルコト

新刑法概観 十三 共犯ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 十四 刑ノ加減ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 十五 徵償處分、復權及ヒ親屬例ノ規定ヲ削リタルコト 二一



(一) 徵償處分ニ關スル規定ハ其性質上刑法中ニ掲クヘキモノニ非サルヲ以テ新刑法ハ之ヲ掲ケス而シテ之ニ關シテハ已ニ刑事訴訟法中ニ一部分ノ規定アリ又新刑法施行法ヲ以テ他ノ部分ヲ規定セリ

(二) 復権ハ 天皇ノ大權ニ基ツクモノニシテ固ヨリ其性質上刑法中ニ規定スヘキモノニ非サルノミナラス新刑法ハ剝奪公權ナル附加刑ヲ廢止シタルヲ以テ其規定ノ必要ナキニ至リタルニ因リ之ニ關スル規定ヲ置カサリシナリ

(三) 新刑法カ親屬例ノ規定ヲ設ケサリシハ已ニ民法ノ完備セル今日特ニ刑法中ニ之ヲ規定スルノ要ナキヲ以テナリ

### 十六 官吏侮辱罪ノ廢止

官吏侮辱罪ハ封建時代ノ遺習タル官尊民卑ノ思想ニ基ツケル過渡的規定ニシテ今日之カ存續ノ必要ナキコトハ一般ノ認ムル所ナリシヲ以テ新刑法ハ全然此規定ヲ廢止セリ其結果著シク官吏ノ威嚴ヲ害センコトヲ虞ル、者アルト同時ニ官吏ヲ侮辱スルモ全然犯罪ヲ構成セサルカ如ク思惟スル者ナキニ非サレトモ是レ大ナル謬見ニシテ新刑法ハ公然事實ヲ指示シテ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其實實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス事實

ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處スト規定シ此等ノ犯罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論スルコト、セルヲ以テ名譽ヲ毀損セラレタリト信スル官吏ハ告訴シテ以テ其鬱憤ヲ晴ラスコトヲ得ヘキナリ

### 十七 信書ニ對スル犯罪ヲ規定シタルコト

信書ノ秘密ハ憲法上ニ於テモ保障セラル、所ナルニ拘ハラス舊刑法カ其保護ニ關スル規定ヲ爲サ、リシハ大ナル欠點ナリキ尤モ郵便ニ附シタル信書ニ對スル犯罪ハ郵便法ニ於テ規定セラルト雖モ此規定ノミニテハ郵便ニ附セサル信書ヲ保護スルヲ得ス故ニ新刑法ハ信書ノ秘密ヲ侵シタル罪、信書ヲ隱匿シタル罪及ヒ之ヲ毀損シタル罪等ヲ規定シ以テ舊刑法ノ欠點ヲ補ヒタリ

### 十八 文書偽造罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

舊刑法ハ公務員ニ對シテ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニ對スル規定ヲ欠キタルヲ以テ種々ノ議論ヲ生セシニ因リ新刑法ハ明カニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

### 十九 猥褻罪ノ未遂犯ヲ罰スルコト

新刑法概観  
 十六 官吏侮辱罪ノ廢止  
 十七 信書ニ對スル犯罪ヲ規定シタルコト  
 十八 文書偽造罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト  
 十九 猥褻罪ノ未遂犯ヲ罰スルコト  
 二二



新刑法ハ猥褻罪ノ未遂犯ハ之ヲ處罰スルコト、セリ故ニ彼ノ不良少年間ニ流行スル雞姦ノ未遂モ亦之ヲ罰スルコトヲ得ルニ至レリ

### 二十 姦淫勸誘罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

舊刑法ハ十六歳ニ滿タサル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一ヶ月以上六ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スト規定セシヲ新刑法ハ改メテ營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スルコト、セリ蓋シ新刑法ハ營利ノ目的ニ出テサルトキハ假令十六歳ニ滿タス而カモ淫行ノ常習ナキ無垢ノ處女ノ淫行ヲ勸誘媒合スルモ之ヲ犯罪トシテ罰スルノ價値ナシト認メタルモノナルヘシト雖モ予輩ハ此規定ノ果シテ其當ヲ得タルヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス又淫行ノ常習ナキ婦女云々ト規定セルカ故ニ營利ノ目的ヲ以スルト否トニ拘ハラズ淫行ノ常習アル婦女ノ淫行ヲ勸誘媒合シタル者ハ本罪ヲ成サ、ルコト勿論ナリ但シ此場合ハ其被勸誘者カ人ノ妻ナルトキハ姦通罪ノ教唆ト爲ルヘク、娼妓ナルトキハ何等ノ犯罪ヲモ成サ、ルヘク又若シ密賣淫婦ナルトキハ警察犯處罰令第一

條第二號ニ依テ處罰セラル、コトアルヘシ

### 二十一 賭博罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

(一) 舊刑法ハ財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者云々ト規定シ現行犯ニ非サレハ之ヲ罰セサルコト、シタリト雖モ此ノ如キ制限ハ何等ノ根據ナキモノナルヲ以テ新刑法ハ之ヲ改メテ一般ノ犯罪ト同シク非現行犯ノ場合ト雖モ之ヲ罰スルコト、セリ

(二) 舊刑法ハ飲食物ヲ賭スル場合ノミヲ例外トシテ罰セサルコト、シタリト雖モ新刑法ハ之ヲ狭シトシテ總テ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合ハ之ヲ罰セストシタリ

(三) 新刑法ハ常習トシテ賭博ヲ爲シタル者ヲ處罰スル旨ノ新規定ヲ設ケタリ蓋シ親分子分ト稱シテ賭博ヲ營業トスル者ヲ取締ル爲メノ規定ニシテ至當ノ規定ナリト言フヘシ

### 二十二 賄賂ノ交付者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタルコト

新刑法概観

二十 姦淫勸誘罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十一 賭博罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十二 賄賂ノ交付者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタルコト 二五



舊刑法ハ賄賂ヲ交付シタル者ニ關スル規定ヲ設ケサリシニ因リ種々ノ議論ヲ生セシヲ以テ新刑法ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スル旨ヲ明規セリ

二十三 死體遺骨等ノ領得罪ヲ規定セシ

コト

舊刑法ハ墳墓發掘及ヒ死屍毀棄ノ罪ヲ規定シタルノミニシテ死屍遺骨其他棺又ハ墳墓内ニ死屍ト共ニ納メアル物ヲ盜取シタル罪ヲ規定セサリシニ因リ學說及ヒ判例區々ニ涉レルヲ以テ新刑法ハ死體遺骨遺髮又ハ棺若クハ墳墓内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ヲ處罰スル旨ノ規定ヲ設ケタリ

二十四 殺人罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタル

コト

舊刑法ハ殺人罪ヲ分テ謀殺毒殺故殺虐殺便宜殺詐殺誤殺トナシ而シテ各種毎ニ刑ヲ異ニシタルモ新刑法ハ單ニ人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スト規定セルノミニシテ此ノ如キ小分主義ヲ採ラズ是亦主觀的情狀ニ應シ適當ノ刑罰ヲ科セシメントスルノ主義ニ出テタルニ外ナラス

因ニ言フ舊刑法ハ祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ニ付テハ其犯ストキ知ラサリシ場合ノ外特別ノ宥恕又ハ不論罪ノ例ヲ用ユルコトヲ得スト規定セルヲ以テ祖父母父母ニ對シテハ正當防衛ニ出テタル行爲ト雖モ尙ホ殺親罪又ハ傷親罪ヲ構成シタルモ新刑法ハ此制限ヲ以テ謂ハレナキモノトナシ之ヲ削除セリ

二十五 傷害罪(殴打創傷罪)ノ規定ニ改正

ヲ加ヘタルコト

舊刑法ハ殴打創傷罪ニ付テハ犯罪ヨリ生シタル創傷ノ程度如何ニ因リ科スヘキ刑ヲ異ニスルコト、シ之ヲ數様ニ區別セシモ此ノ如キ區別ハ實際上甚タ煩雜ナルノミナラス往々罪狀ト刑罰トノ間權衡ヲ得サルコトアルヲ以テ新刑法ハ單ニ人ヲ傷害シタル者ハ云々トノ規定ヲ設クルニ止メ裁判官ニ適宜裁量ノ餘地ヲ與ヘタリ

二十六 竊盜及ヒ強盜罪ノ規定ニ改正ヲ

加ヘタルコト

舊刑法ハ竊盜罪ニ付キ單純竊盜乘變竊盜踰越竊盜共謀竊盜持兇器竊盜田野竊盜屋外竊盜等ノ種別ヲ認メタレトモ新刑法ハ單ニ他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ云

新刑法概観 二十三 死體、遺骨等ノ領得罪ヲ規定セシコト 二十四 殺人罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十五 傷害罪(殴打創傷罪)ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十六 竊盜及ヒ強盜罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二七



舊刑法ハ賄賂ヲ交付シタル者ニ關スル規定ヲ設ケサリシニ因リ種々ノ議論ヲ生セシヲ以テ新刑法ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スル旨ヲ明規セリ

二十三 死體、遺骨等ノ領得罪ヲ規定セシ

コト

舊刑法ハ墳墓發掘及ヒ死屍毀棄ノ罪ヲ規定シタルノミニシテ死屍、遺骨其他棺又ハ墳墓内ニ死屍ト共ニ納メアル物ヲ盜取シタル罪ヲ規定セサリシニ因リ學說及ヒ判例區々ニ涉レルヲ以テ新刑法ハ死體、遺骨、遺髮又ハ棺若クハ墳墓内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ヲ處罰スル旨ノ規定ヲ設ケタリ

二十四 殺人罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタル

コト

舊刑法ハ殺人罪ヲ分テ謀殺、毒殺、故殺、虐殺、便宜殺、詐殺、誤殺トナシ而シテ各種毎ニ刑ヲ異ニシタルモ新刑法ハ單ニ人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スト規定セルノミニシテ此ノ如キ小分主義ヲ採ラス是亦主觀的情狀ニ應シ適當ノ刑罰ヲ科セシメントスルノ主義ニ出テタルニ外ナラス

因ニ言フ舊刑法ハ祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ニ付テハ其犯ストキ知ラサリシ場合ノ外特別ノ宥恕又ハ不論罪ノ例ヲ用ユルコトヲ得スト規定セルヲ以テ祖父母父母ニ對シテハ正當防衛ニ出テタル行爲ト雖モ尙ホ殺親罪又ハ傷親罪ヲ構成シタルモ新刑法ハ此制限ヲ以テ謂ハレナキモノトナシ之ヲ削除セリ

二十五 傷害罪(毆打創傷罪)ノ規定ニ改正

ヲ加ヘタルコト

舊刑法ハ毆打創傷罪ニ付テハ犯罪ヨリ生シタル創傷ノ程度如何ニ因リ科スヘキ刑ヲ異ニスルコト、シ之ヲ數様ニ區別セシモ此ノ如キ區別ハ實際上甚々煩雜ナルノミナラス往々罪狀ト刑罰トノ間權衡ヲ得サルコトアルヲ以テ新刑法ハ單ニ人ヲ傷害シタル者ハ云々トノ規定ヲ設クルニ止メ裁判官ニ適宜裁量ノ餘地ヲ與ヘタリ

二十六 竊盜及ヒ強盜罪ノ規定ニ改正ヲ

加ヘタルコト

舊刑法ハ竊盜罪ニ付キ單純竊盜、乘變竊盜、踰越竊盜、共謀竊盜、持兇器竊盜、田野竊盜、屋外竊盜等ノ種別ヲ認メタレトモ新刑法ハ單ニ他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ云

新刑法概観 二十三 死體、遺骨等ノ領得罪ヲ規定セシコト 二十四 殺人罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十五 傷害罪(毆打創傷罪)ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十六 竊盜及ヒ強盜罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト 二十七



々トノ規定ヲ設クルニ止メ罪刑ノ權衡ヲ得セシメンコトヲ圖レリ  
尙ホ新刑法ハ竊盜罪及ヒ強盜罪ニ付テハ電氣ヲモ財物ト看做シ其盜取ヲ盜罪ノ  
一ニ加ヘタルコトハ前述ノ如シ

以上ハ新刑法ノ舊刑法ト異ナル著シキ點ノミヲ舉ケタルモノニシテ此ノ他細微  
ナル差異ニ至リテハ枚舉ニ遑アラヌ要スルニ新刑法ハ社會ノ現狀ニ鑑ミ最新ノ  
學理ニ基ツキ編纂セラレタルモノナルヲ以テ舊刑法トハ全ク面目ヲ異ニスト言  
フモ過言ニ非ス隨テ其運用ニシテ宜ヲ得ハ罰刑權衡ヲ得テ必スヤ良好ナル成績  
ヲ舉クルヲ得ン乎

### 警察犯處罰令

警察犯ハ舊刑法第四編ニ規定セル違警罪ナリ元來此種ノ行爲ハ主トシテ行政警  
察ノ目的ヲ達スル必要上之ヲ罰スルニ在ルヲ以テ其規定ハ土地ノ事情人情風俗  
開明ノ程度等ニ從ヒ最モ良ク各地方ノ現狀ニ適應セサル可カラサルヲ以テ永久  
不變ノ法典ニ之ヲ規定スヘキモノニ非ス是ヲ以テ其重大ナル罪目ノミヲ本令ニ

規定シ他ハ各地方ノ情狀ニ應シ適當ノ規定ヲ爲サシムルコト、シタルナリ本令  
ニ付テノ某當局者ノ說明ハ最モ能ク其精神ヲ明カニシ警察官ハ固ヨリ一般人ノ  
參考トナルニ適スルヲ以テ之ヲ摘記センニ曰ク

元來警察犯處罰令ノ性質ハ秩序風紀衛生上ノ取締ノ目的ヲ達スル方法手段ト  
シテ刑罰ノ制裁ヲ定メタルニ過キスシテ決シテ刑罰ヲ目的トスルモノニ非サ  
ルヲ以テ若シ取締上必要ヲ認メサルニ於テハ處罰スルニ及ハサルハ言フ迄モ  
ナキコトナルニ從來警察官吏方此趣旨ヲ誤解シ刑ノ濫用ニ流ル、カ如キコト  
ナキニアラサリシヲ以テ今後ハ假令犯罪者アルモ成ルヘク説諭ヲ以テ將來ヲ  
戒ムルヲ趣旨トシ到底説諭ノ效果ナカルヘキ場合其他已ムヲ得サル場合ニ於  
テノミ拘留若クハ科料ヲ加フルノ方針ナリ又數罪ヲ併科シテ拘留月餘ニ涉ル  
カ如キハ法ノ適用上差支ナシトスルモ刑法上ノ刑罰ト較量シテ往々過酷ニ陷  
ル場合アレハ頗ル斟酌ヲ要スルモノト信ス殊ニ他ノ罪證ヲ取調フルノ手段ト  
シテ故ラニ長時日ノ拘留ヲナスカ如キハ法律ノ濫用ト謂ハサルヲ得ス況ンヤ  
一定ノ住所職業ヲ有スル者ヲ浮浪罪者トシテ處斷シ正式裁判ノ結果無罪ヲ言  
渡サル、ノ類アルニ於テヲヤ又科料拘留ノ一ヲ擇テ科スヘキ場合ニ於テハ犯



人生活ノ状態並ニ其犯罪ヲ案查シ宜シキニ適ヘルノ道ニ出ツヘキ趣旨ナルニ  
 動モスレハ擇一刑ノ趣旨ヲ沒了シ一方ニ偏スルノ處分ヲナシ易キヲ以テ警察  
 犯處罰令ハ是等ノ點ニ對シ改正刑法ノ實施ト共ニ充分ニ其目的ヲ達セントス  
 ルノ趣旨ニ依リ編纂セラレタルモノニ外ナラス而シテ警察犯ト舊刑法規定ノ  
 違警罪トヲ比較スルニ新ニ加ヘラレタル條項少カラス是レ社會事情ノ變遷ト  
 共ニ從來ノ規定ノミヲ以テハ公ノ秩序風紀若クハ公共衛生ノ取締上不備ノ點  
 尠カラサルヲ以テ多年ノ經驗ニ基キ必要ト認メタル事項ヲ附加セシモノナリ  
 例ヘハ第二條第十九號ノ濫ニ催眠術ヲ施シタル者ヲ罰スルハ催眠術ヲ惡用シ  
 テ強姦若クハ詐欺ノ犯罪行爲ヲ行フ者アルヲ未然ニ防カントスルノ趣旨ニ出  
 テ又同條第三十一號濫リニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者ノ規定ハ外  
 人等ノ來遊ニ際シ人民ノ物珍ラシ氣ニ其身邊ニ群集シ警官之ヲ制止スルモ從  
 ハサルモノアル事實ニ據リタルモノ第三條第十四號ノ公衆ノ目ニ觸ルヘキ場  
 所ニ於テ牛馬其他ノ動物ヲ虐待シタル者ハ數年來主張サレタル動物虐待防止  
 ノ輿論ヲ實ニシタルモノ又濫リニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物  
 品入場券ヲ配付シタル者新聞紙雜誌其他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ

シ不正ノ利ヲ圖リタル者新聞紙雜誌其他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付  
 キ強テ其申込ヲ求メタル者申込ナキ新聞紙雜誌其他ノ出版物ヲ頒布シ又ハ申  
 込ナキ廣告ヲ爲シ其代料ヲ請求シタル者ヲ罰スルノ規定ハ近來此等ノ惡風漸  
 次漫延シ取締ヲ要スルモノアルヲ以テナリ其他各地ノ狀況ニ依リ取締ヲ必要  
 トスル事項ヲ地方官ヨリ申達シ來リタルモノ多カリシモ餘リ煩些ニ流ル、ヲ  
 以テ多クハ府縣令ノ規定ニ讓リタリ  
 左ニ本令ト舊違警罪トノ異同及ヒ本令ト新刑法中ノ犯罪トノ關係ヲ一見スルノ  
 便ニ供センカ爲メ兩者ノ對照ヲ示サン

警察犯處罰令

舊刑法第四編違警罪

【注意】

- 第四二五條ニ列舉セル罪ハ三日以上十日以  
 下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下  
 ノ科料ニ處ス
- 第四二六條ノ罪ハ二日以上五日以下ノ拘留



又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第四二七條ノ罪ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四二八條ノ罪ハ一日ノ拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第四二九條ノ罪ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第四二五條十一號 人ノ住居セナル家屋内ニ潜伏シタル者

第四二五條十號 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス

- 一 故ナク人ノ住居若ハ看守セナル邸宅、建造物及船舶内ニ潜伏シタル者
- 二 賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス

- 一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲ナシメタル者
- 三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シ

第四二五條十二號 定マシタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

公益ニ關スル犯罪  
第六八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



タル者

【参照】

新刑法第二三四條 威力ヲ用ヒ人ノ業

務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大  
又ハ虚偽ノ廣告ヲ爲シ不利ヲ圖リタ  
ル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又  
ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル  
者

八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物  
ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代  
料ヲ請求シタル者

九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又

ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾  
病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死  
胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告  
セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮  
ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ  
喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル  
者

十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ

警察犯處罰令

身體ニ關スル重罪罪  
第三四〇條 自己ノ所有地又ハ看守スヘキ地内

ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ  
之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五  
日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶  
助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第四二五條八號 自己ノ所有地内ニ死屍アルコ  
トヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル  
者

第四二九條十一號 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ  
テ制止ヲ肯セサル者

第四二九條十二號 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ  
醉臥シタル者

第四二九條二號 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横



濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條三號 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條四號 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危険ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

第四二六條五號 人ノ通行ス可キ場所ニ在ル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者  
第四二七條四號 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者

第四二七條一號 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條二號 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場

所ニ車馬ヲ牽キタル者

同條三號 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

第四二九條七號 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條八號 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

第四二七條十一號 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

第四二七條十二號 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者



濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條三號 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條四號 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

第四二六條五號 人ノ通行ス可キ場所ニ在ル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者  
第四二七條四號 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者

第四二七條一號 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條二號 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場

所ニ車馬ヲ牽キタル者

同條三號 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

第四二九條七號 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯

ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

同條八號 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニ

シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

第四二七條十一號 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

第四二七條十二號 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者

警察犯成罰令



二十 官職、位記、勳符、學位ヲ詐リ又ハ

法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者

【參照】

新刑法第一四二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處

公益ニ關スル重罪類  
第二三二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽

章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

同上  
第二三一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

ス

同第一四三條 水道ニ因リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

同第一四四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

同第一四五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

同第一四六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其



他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

同第一四七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

二十三 河川、溝渠又ハ下水道ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

【参照】

新刑法第一一九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四二八條六號 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

同第一二〇條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

同第一二三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

第四二八條九號 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業

トスル者



二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

二十七 水火災其他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ハラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者  
二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜菓ヲ採

第四二九條九號 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

第四二七條十六號 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀損汚損シタル者

第四二九條十號 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

第四二六條二號 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

第四二九條十三號 路上ノ常燈ヲ消シタル者

第四二九條十六號 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜

菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

【參照】

新刑法第二三五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

【參照】

新刑法第二三四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及

警察犯處罰令

第四二七條五號 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シ



ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛澆シ又ハ放射シタル者

三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

【參照】

新刑法第一八八條第一項 神祠、佛堂、

墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行

爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若ク

ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處

ス

三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隠匿シ又ハ他

物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正

ノ利ヲ圖リタル者

三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健

タル者

第四二六條十號 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ

又ハ汚瀆シタル者

同條十一號 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シ

タル者

第四二六條三號 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲

食物ヲ販賣シタル者

第四二八條十號 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸

類ヲ解放シタル者

同條十一號 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル

者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未

滿ノ科料ニ處ス

一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖

シ又ハ之カ保存ヲ爲シタル者

二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、

裸裡シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜

體ヲ爲シタル者

三 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタ

ル者

第四二五條七號 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シ

タル者



- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 七 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
- 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 九 炮煮、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之カ取除ノ義務ヲ怠リタル者

第四二五條四號 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

第四二六條一號 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

第四二七條九號 醫師穩婆故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

第四二七條六號 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

同條七號 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者

- 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

者

第四二九條五號 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

第四二六條七號 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

第四二六條六號 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者

第四二六條八號 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

第四二九條十四號 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

同條十五號 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者



十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第四二九條一號 橋梁又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

第四二九條十八號 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四二五條一號 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

同條二號 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ發スヘキ物品ヲ貯藏シタル者

同條三號 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

同條五號 蒸汽器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ

及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

同條六號 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

同條九號 人ヲ毆打シテ疾病創傷ニ至ラサル者

同條十三號 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

同條十四號 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免レタルトキハ一等ヲ加フ

第四二六條四號 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者  
同條九號 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

新刑法第二〇八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

新刑法第一六九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

新刑法第一九二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス



新刑法第二三一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然  
人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス（告  
訴ヲ待テ其罪ヲ論ス）

同條十二號 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ  
待テ其罪ヲ論ス

第四二七條八號 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ  
業ヲ爲シタル者

同條十號 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル  
者

同條十三號 私有地外ヘ濫リニ家屋墻壁ヲ設ケ  
又ハ軒楹ヲ出シタル者

同條十四號 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床  
店等ヲ開キタル者

同條十五號 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等  
ヲ毀損シタル者

第四二八條一號 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品  
ヲ定價以上ニ販賣シタル者

同條二號 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上  
ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

同條三號 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フヘキ場所  
ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

同條四號 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シ  
タル者

同條五號 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開  
キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

同條七號 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ  
商品ヲ羅列シタル者

同條八號 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ  
又ハ牧畜シタル者

第四二九條六號 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃  
除ヲ爲サ、ル者

同條十七號 公園ノ規則ヲ犯シタル者



又  
101

畢

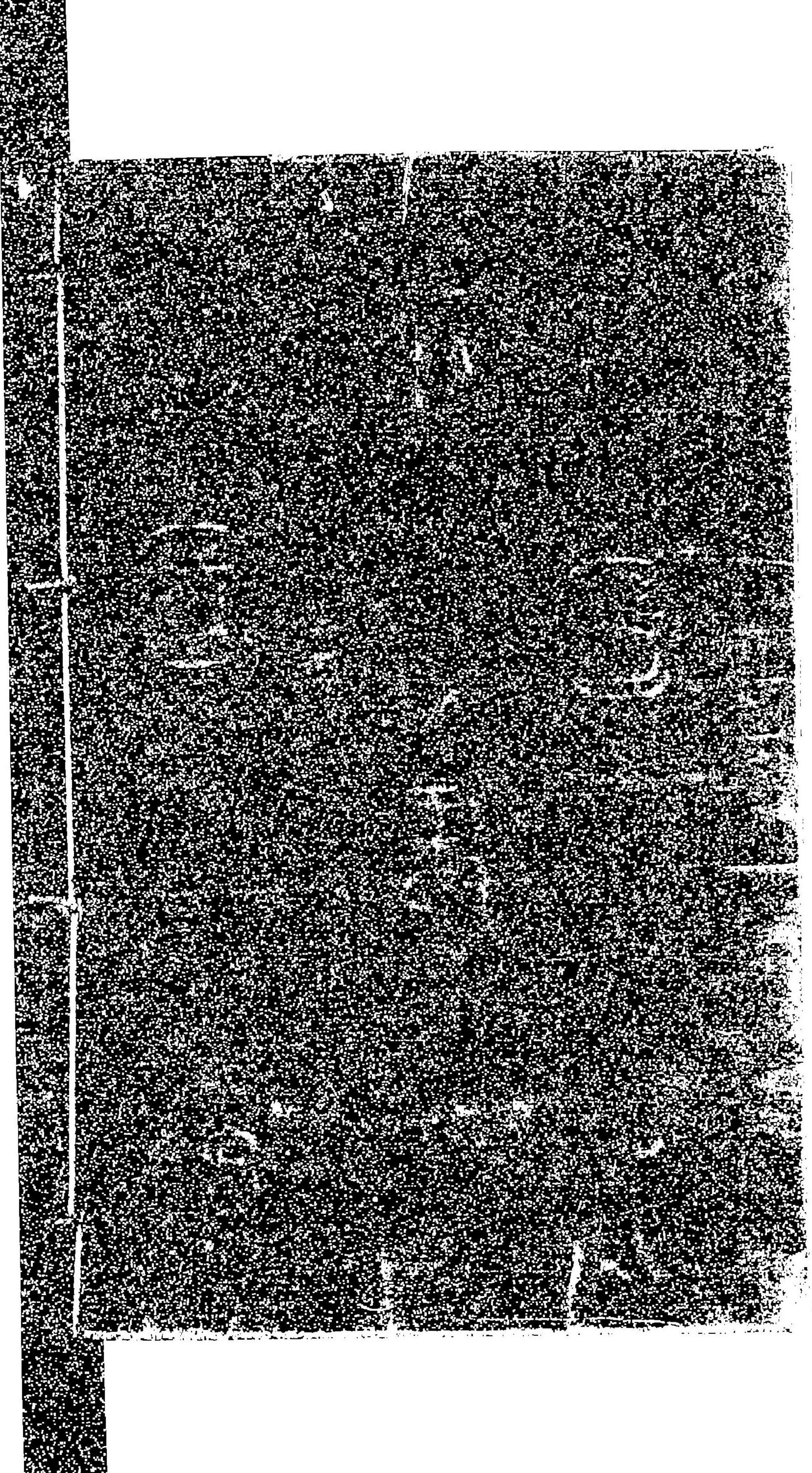
畢

第四三〇條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便  
宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其  
罰則ニ從テ處斷ス

五二

明治三十一  
9/4







明治大學四十二年  
法律科第一學年講義錄

新刑法概観

又  
1011

036029-000-1

ス-101

新刑法概観

明治大学出版部

[M42?]

BBP-0657

